

- ・ピロリ菌と胃癌 ～胃癌は予防できる～…………… P 2
- ・職員紹介…………… P 3
- ・がん相談支援センター…………… P 4
- ・「来院の皆さまの声に対する」報告・お知らせ…………… P 4

静岡病院ニュース

順天堂大学医学部附属静岡病院

〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129 TEL 055-948-3111

No. 64
2015年7月10日



(浄蓮の滝)

セカンドオピニオン外来について



予防医学センター長
大熊 泰之

私は3年前から当院の予防医学センター長を務めております。予防医学センターでは人間ドックの施行が中心ですが、セカンドオピニオン外来も行っております。

皆様の中にはセカンドオピニオンといっても聞き慣れない言葉と感じる方もおられると思います。セカンドオピニオンとは、患者さんが主治医（かかりつけ医）から勧められた治療法を選択するにあたり、納得して治療を受けられるよう主治医以外の医師の意見を求めることです。最近では、患者さんやご家族がいろいろな医師の意見を聞いて、病気をよく理解し自ら治療方針を決めていくことが当たり前になってきました。セカンドオピニオン外来は完全予約制で、お待たせすることはありません。予防医学センター内の個室で、各科の専門医が約30分間ゆっくりと時間をとって皆様のご相談にのることが可能です。

セカンドオピニオン外来でのご相談を希望される方は、予防医学センターまでご連絡をお願いいたします。あるいは現在おかりになっている医療機関からも予約可能です。セカンドオピニオン外来が少しでも皆様のお役に立てば幸いです。

●セカンドオピニオン外来●

■問合せ／順天堂大学医学部附属静岡病院 予防医学センター
■連絡先／(代表) 055-948-3111 (内線)1200

ピロリ菌と胃癌

胃癌は予防できる



消化器内科 教授

永原 章仁

まだまだ多い胃癌

わが国の胃癌の罹患率は近年徐々に減少しているものの、死亡原因のワースト3に入っており、いまだに大きな脅威であることに変わりありません。胃癌の危険因子として食塩の過量摂取、アルコールとたばこが知られていますが、これらの生活習慣に加え、胃癌の危険因子として最近特に注目されているのが、ヘリコバクター！ピロリ菌(図1)です。

ピロリ菌と胃癌

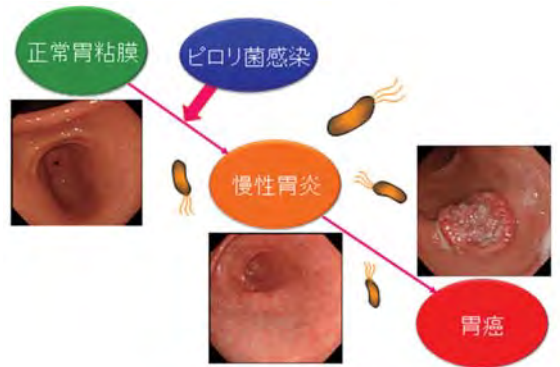
図1：顕微鏡で見たピロリ菌



電子顕微鏡で見たピロリ菌

ピロリ菌の歴史は、人類の歴史です。人類大移動とともに5万8千年前にアフリカを旅立ち、ヨーロッパ、ユーラシアを経て日本に伝播しました。残念ながら日本に伝播した頃には、胃癌を発生させる強毒株となっていました。これが我が国で胃癌が多い主因となっています。ピロリ菌は乳幼児期に周囲から感染してしまい、その後ずっと胃の中で生き続けています。大人では新たに感染することはほとんどありません。小児期に感染したピロリ菌、胃の中で生き続け、徐々に胃の細胞を痛めつけます。これが慢性胃炎です。さらにそこから胃癌が発生します(図2)。ピロリ菌感染者が全員胃癌になるわけではありませんが、日本人を対象として長期間にわたる胃癌の発生を観察した研

図2：慢性胃炎から胃癌へ



究では、ピロリ菌陽性者からのみ年率0.5%胃癌が発見されています。ピロリ菌陽性者は「胃癌の危険グループ」といえます。

胃癌の予防

たばこやお酒は様々な病気の原因となりますが、胃癌の危険性はたばこで3倍、たばことお酒で5倍に高まると言われています。一方、野菜や果物を毎日摂取すると胃癌の危険性は減少したとの報告があります。

では、ピロリ菌を除菌治療すると胃癌は予防できるのでしょうか？除菌治療により胃癌の発生

は約半分に減少させることができます。慢性胃炎の程度が軽度なほど予防効果が特に高いとされ、胃炎が進行していない若年での除菌が望まれます。除菌治療は、1週間抗生物質と胃薬を組み合わせた処方内服します。わずか1週間の服薬で胃癌の発生が半減する予防法は他にはありません。ピロリ菌がもともといない人はほとんど胃癌になりません。しかし、除菌治療後の人は注意が必要です。胃癌発癌リスクはゼロにはならず、年余にわたり残存します。胃癌には、特有の自覚症状はありません。したがって、ピロリ菌陽性者のみならず、ピロリ菌を除菌治療が成功した人も胃癌検診をしっかりと受けて、早期発見をめざす必要があります。

我が国から胃癌を撲滅させるために

ピロリ菌は乳幼児期に感染することから、乳幼児に対する感染対策が鍵になります。とくに濃厚な接触をする親が、我が子にピロ

職員紹介



腎臓内科 先任准教授
清水 芳男

Profile

平成27年4月1日付で、腎臓内科科長に就任しました清水芳男です。静岡病院で新たな一歩を踏み出せることを大変光栄に感じております。

私たち腎臓内科医は、尿の異常から末期腎不全までの患者さんを対象とし、末期腎不全への移行を防止するとともに、末期腎不全の方も健やかに長生きできるように努力することを使命としています。

腎疾患専門施設として、腎生検による糸球体腎炎・ネフローゼ症候群の組織診断および治療、重症患者の水・電解質など全身管理のサポート、慢性腎臓病の集学的治療、末期腎不全に対する血液透析導入（内シャント手術）などを行っています。また、周辺医療機関の患者さんのコンサルテーションおよび緊急入院の受け入れなど、病診連携にも力を注いでおります。

患者さん・ご家族・関係施設の皆様から信頼される医療をめざしてスタッフ一同邁進する所存です。よろしくお願致します。

慢性疾患看護専門看護師

9A師長 田村 美紀

Profile

慢性疾患看護専門看護師の役割は、疾患を管理し、生活との折り合いをつけながら、その人らしい生活が送れるように支援することです。

入職後、8年目で現在の混合病棟へ異動となりました。生命の危機的狀況にある患者さんの看護から、慢性疾患を抱え入院を繰り返す患者さんに対する看護に異動当初は戸惑うこともありましたが、複雑な家族背景を持つ患者さんとの関わりが多くなり、病気と共に生活する方法を患者さんやご家族と共に考えるうちに、もっと専門的に学び看護に活かしたいと考えようになりました。そして2012年に大学院を受験し、実習や研究活動を経て今年1月に日本看護協会慢性疾患専門看護師の認定を受けました。

患者さんの不安が少ない状態での療養生活を過ごせるような看護実践と、スタッフの育成をしていきたいと思っております。

順天堂大学保健看護学部2期生卒

6A病棟 看護師 榎本ひとみ

Profile

順天堂大学保健看護学部にて2期生として入学し、先輩方が築いて下さった基盤のもと、看護について多くの学びを得てきました。在学中の当病院での実習は、患者さんとの触れ合いや先輩看護師の方々からの指導によって、より深い学びを得る機会となりました。しかし、祖母が入院した際、学生だった私は家族として祖母に対し何もできず、不甲斐ない思いを抱きました。祖母のような患者さんやご家族の支えになりたい。その思いを胸に勉学に励み、国家試験に無事合格することができました。晴れて看護師となった私は、祖母が入院した6A病棟で働いています。分からない事も多い中、先輩方の指導・助言、同期の支えのもと、少しずつですが業務の流れに慣れてきました。まだまだ未熟で余裕がありませんが、1人でも多くの患者さんやご家族の支えとなる看護師になるため、初心を忘れず日々の学びを大切にしていきたいと思っております。

消化器内科の取り組み

細菌を感染させる感染源となってしまうのです。したがって、感染源撲滅のためには親になる年齢以前にピロリ菌の有無を調べて陽性例には除菌することが理想です。そうすれば、我が子に感染させることはありません。こうした取り組みを続けることで、将来日本からピロリ菌は駆逐され、すなわち、胃癌が劇的に減少することが期待されます。

検診でピロリ菌陽性と言われた、除菌治療が不成功に終わったなど、ピロリ菌に関する悩みや治療上の問題点を抱えている患者さんも多いと思います。当科ではこうした患者さんに対して、日本ヘリコバクター学会認定のピロリ菌感染症認定医が相談や治療などを行う「ピロリ菌外来」を開設しております。少しでも患者さんのお役に立つことができれば幸いです。

胃癌が劇的に減少することが期待されます。

がん相談支援センター

●がん相談支援センターより

当院は、平成19年2月1日より地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、「がん相談支援センター」が設置されました。

専門の相談員が常駐して、がん患者さんやご家族ほか一般の方の相談に対応しています。当院で治療中の患者さんだけでなく、近隣地域にお住まいの方々も対象にしています。気兼ねなく、ご来室ください。

相談内容は、個人情報保護法により相談以外には使用いたしません。また、相談は無料です。

●がん相談支援センターの役割

- ① がんという未知の病に対する不安を傾聴し、ともに考えてより良い方向へ導く手助けなど
- ② 誰に聞いてよいか判らない病気のこと
- ③ 相談者(クライアント)が、セカンドオピニオンを受ける際のサポート
- ④ がん関連の最新情報の提供
- ⑤ 治療費や適切な支援の仕組みなど専門家への紹介
- ⑥ アスベストによる肺がんおよび中皮腫の医療相談
- ⑦ HTLV-1感染関連疾患に関する事
- ⑧ 地域のハローワークなどと連携した就労支援など
- ⑨ がん患者・家族サロンの開催(4回/年):3月・6月・9月・12月の第一土曜日午前10時~11時
次回開催は、9月5日(土)です。詳細は、病院のホームページか院内掲示をご覧ください。

*「がん相談支援センター」は「患者・看護相談室」に併設されています。

- 開室時間：月~金曜日/8時30分~17時 土曜日/8時30分~12時(第二と日・祝日を除く)
- 相談方法：面談か電話相談で個室で行ないます。(予約不要・無料)

電話:(代表)055-948-3111 (内線)3829

フリーダイヤル:0120-78-9914

『ご来院皆さまの声に対するご報告』

- ◆大学病院の先生は忙しい為、冷たいイメージがあったが、担当の先生は、どんな些細なことにも優しくにこやかに接し、嫌な顔ひとつせず診察してくれます。
- ◆夜勤での対応は大変な仕事だと思いますが、担当の男性看護師は、言葉遣い、スピーディーな対応、患者の気持ちを読み取り安心感を与えてくれる。この看護師さんが順天堂にいることは、大学病院の誇りと評価は高いものです。
- ◆先生方、本当にありがとうございました。本当に感謝しきれません。他県の病院もいろいろ回りましたが、静岡県東部に大変優秀な先生方が揃った病院があると知りませんでした。息子は、とても運が良かったと思います。
- ◆入院は初めてで、とても不安な気持ちでしたが、担当の先生は、治療はもちろん、いろいろな点で気を遣ってくれ、安心して入院することができました。

広報誌をご覧の皆様へ

ご意見ご要望等ございましたら、下記まで御連絡下さい。

問合せ：順天堂大学医学部附属静岡病院 医療サービス支援センター地域医療連携室
電話：055-948-3111 (内線)3550